

# 令和7年度学校自己評価システムシート (県立ふじみ野高等学校)

目指す学校像	これからの時代をたくましく生きる知・徳・体を育むとともに、仲間とともに学習にスポーツ・文化活動に全力でチャレンジし、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	---

重点目標	1 ICTの効果的な活用による授業改善を通して主体的に学習に取り組む態度や探究心を育成し、進路実現に繋げる。 2 自律的規範意識と他者を尊重する精神の涵養を通して豊かな心と健やかな体の育成を図る。 3 家庭、地域及び大学等の連携を充実させ、社会に開かれた教育課程の実現を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )				実 施 日 令 和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	<b>【現状】</b> ・家庭学習時間が1時未満の者が8割以上おり、ICT端末やアプリを活用している生徒も半数以下に止まっている。 ・第一希望の進路実現に向けて生徒一人ひとりの在り方生き方と関連付けた学びを支援している。 <b>【課題】</b> ・主体的に学習に取り組む態度と探求心の育成を図るとともに家庭学習の習慣化に向けた家庭との連携に取り組む必要がある。 ・個に応じた進路指導推進のため、第一希望への進路実現と探求活動をより深く行う支援体制を推進していく必要がある。	①ICTを効果的に活用した授業実践を通して主体的な学びにつながる授業の質の向上に取り組む。 ②生徒一人ひとりの在り方生き方と関連付けた探究的な学びを深化させる。	①授業時間数を確保し、年間計画に基づいた授業内容を実践に実施する。 ①主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を通じた学力向上を実践する。 ①課題や復習勉強会、苦手意識のある授業の復習等による自己学習時間を確保する。 ②入学年から計画的に進路探究を行い、自らの適性を発見させる。 ②個に応じた的確な情報提供と継続的な支援を継続する。 ②進路決定に向けた段階的できめ細かな進路指導を実施する。	①年間計画に基づいた授業を実施するとともに、年間授業時数を確保できたか ①指導の工夫により、主体的に学ぶ習慣を育成できたか ①生徒の家庭学習時間は増加したか ②多様な進路選択を理解し、自身の適正に応じた計画策定ができたか ②進路実現と探究的な学びを関連付けられた生徒の割合が増えたか。 ②進路指導に対する生徒の満足度が増えたか。						
2	<b>【現状】</b> ・部活動においては、2つの部活動でインターハイ優勝の快挙を果たした。生徒指導案件も減少し落ち着いた環境となってきた。 ・生徒一人ひとりにとって安全安心な学習環境の確保に努めている。 <b>【課題】</b> ・学習と部活動の両立とともに高い規範意識と自他を尊重する社会性の育成に引き続き取り組む必要がある。 ・個に応じた組織的な教育支援体制を継続し、スクールカウンセラーや外部支援団体等との連携を図りながら指導に取り組む。	①高い規範意識を持ち自他を尊重する社会性を育成する ②生徒それぞれの多様な状況に対応できる組織的な支援体制を強化する	①部活動の活性化と活動環境の整備を進める。 ①学級、各種委員会、学校行事等を通じて生徒が活躍する場面を創出する。 ②多様な生徒に対応するため、学校内での教育相談体制を構築する ②研修等を通して、全教職員に正しい知識を身につけさせる ②スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、早期の心のケアを実践する。	①生徒が積極的に部活動に参加できたか。 ①学校行事の満足度は高いものであったか。 ①各種活動に主体的に取り組めた生徒の割合は高いものであったか。 ②教育相談に係る事案を組織的に対応できたか。 ②研修を実施し、理解を深めることができたか ②早期な対応により効果的な取組ができたか。						
3	<b>【現状】</b> ・地域の大学・小学校との連携や生徒会や文化部を中心とした地元自治体への催し物への積極的な参加を行っている。 ・学校ホームページやSNSを利用して部活動の活動状況や大会結果などの情報発信に努めている。 <b>【課題】</b> ・「地域に1校」という特色を生かして、地元小学校・中学校も交えた「オールふじみ野」での教育を進めていく必要がある。	①地元教育機関と地元自治体との連携協働を進める ②各種広報媒体を活用して本校の特色を積極的に発信する。	①高大連携プログラムを推進し、深化を図る。 ①地域との交流活動等に積極的に参加する。 ①学校評議員会や生徒及び保護者のフィードバックを教育活動の改善に繋げる。 ②学校ホームページや外部メディア等を積極的に活用し、効果的に教育活動を配信する。 ②生徒募集活動の工夫改善を図る。	①高大連携プログラムの実施状況が推進できたか。 ①地域との交流活動への参加数が増えたか。 ①フィードバックを生かした教育活動の改善が図れたか。 ②情報提供を広く周知し、本校知名度を高められたか。 ②参加者の満足度は高いものであったか。						